

モノづくり若手人材育成・強化のための 産学協働教育のあり方

人材育成研究会

三井重工業 代表取締役常務執行役員
阿部 孝氏

三井重工業は創業以来一貫してモノづくりを社業としてきた会社だ。モノづくりを通じてお寄りや社会の利益を実現することを目標に活動している。この実現が真のグローバル企業に通じる道ではないかと考え、事業運営をしている。事業活動を通じた多くのステークホルダーへの貢献地域社会との共生を通じた地域への貢献、それから「モノづくり」を育てるという将来のモノづくりを支える次世代の育成にも社を挙げて取り組んでいる。下が若手技術者の早期戦力

日本で特異な教育システムでそれを紹介したい。北海道から沖縄まで国立の51校があり、他に公立3校、私立が3校だ。中学校を卒業した15歳から5年間、あるいは専攻科を含む7年間の一貫教育を行っている。全体のキャバシティは1万人ほどで、これは中学卒業生の約1%。産業界の要請もあって高専がで50年になるが、定員が1万人といふことで、一般にはなかなか見えてこないかもしれない。ただ、国立高専機構は全国各地の経済状況などがすぐに上がっている。こうした組織力を持つ

高専機構と連携した 若手モノづくり人材の育成

高専と企業との協同教育による国際的技術者の育成

京兼 純氏
明石工業高等専門学校 校長
国際担当理事

高等専門学校（高専）は日本で特異な教育システムでそれを紹介したい。北海道から沖縄まで国立の51校があり、他に公立3校、私立が3校だ。中学校を卒業した15歳から5年間、あるいは専攻科を含む7年間の一貫教育を行っている。全体のキャバシティは1万人ほどで、これは中学卒業生の約1%。産業界の要請もあって高専がで50年になるが、定員が1万人といふことで、一般にはなかなか見えてこないかもしれない。ただ、国立高専機構は全国各地の経済状況などがすぐに上がっている。こうした組織力を持つ

モノづくりは人づくりとよく言われるが、企業は人なりという思いを持っている。当社は造船業をやってきたので、「船をつくる前から専門教育を行うこと」が大きいのは全国の工学部のおよそ2倍の時間費やしている。ロボットコンテスト（ロボコン）やデザインコンテスト（デザコン）などを通じて体験重視の指導を行っている。

さらに大きいのは全国の

立地条件で、多くの企業が

高専と連携して、若手技術者の育成を行っている。

これらを踏まえて若手モノ

づくり人材の育成の課題を

挙げると、若手技術者

を挙げると、若手技術者

を挙げると、若手技術者